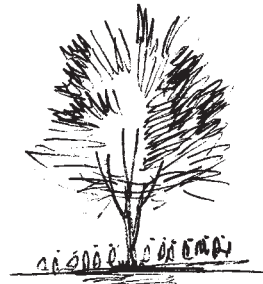


光の子



No.214 2024.7.1

●年間聖句 何事も愛をもって行いなさい。(コリント信徒への手紙16章14節より)



「ダリアに見惚れて」

表紙絵・中島 由起子

光る子等

落合 水尾

(「浮野」主宰)

太古より水の中より芦の角

水郷に水草生へたり水明り

大利根はよしきり鳴いて暮れなずむ

木の芽晴やがて一気に迎へたり

草取っていつものひとりがみたる

日当たりてひとりの居場所草を取る

大利根の子等光る子等風薫る

就任のぐ挨拶

光の子どもの家施設長 穴水 祐介

今年度、竹花信恵に代わり光の子どもの家5代目の施設長となりました穴水祐介ともうします。歴代の施設長が築き上げた沢山の功績を引き継ぐ責任の重さを感じております。大黒柱であった施設長の竹花、開設時からベテラン倉澤智子が定年退職となり、2人がいない現場の欠けは大きく日々の人員配置にてんやわんやしておりますが職員みんなの頑張りで子どもたちは元気に過ごしております。

今年度の光の子どもの家の年間聖句を「何事も愛をもって行いなさい」(コリント信徒への手紙一16章14節)としました。この聖句を選んだ理由は、子どもたちも職員もお互いに助け合わなければこの家は前に進むことができないからです。子どももおとなもそれぞれにたまたまのを持っています。そのたまものを自分のためばかりではなく他者のために使うことで磨かれていき

ます。力のない施設長の私を助けてほしいという願いもあります。子どもたちがいつも元気でいてほしい。希望を失うことなく幸せになつてほしい。職員には子どもたちと過ごす時間が楽しいと思える日常、共に生きる喜びを見つけてほしい。そのために、職種や立場を超えてみんなで話し合いながら夢のある暮らしを作っていくしたいと思います。

光の子どもの家が開設して39年目となりました。その間に児童養護施設をとりまく環境や世の中の仕組みも大きく変化しました。制度や経済的な面は改善されていきました。が、この施設が最も大切にしなければいけない設立の理念であるキリスト教の精神が弱くなっていることを感じます。原点にもどり「子どものための子どもの施設」を目指していかねばと感じています。初代理事長の福島勲先生が機関誌『光の子』第2号



に「ここでほんとうに。神に對しての真の畏れと、正しい礼拝の生活のない限り。単なる事業や施設経営屋に終わるのである。

われわれの最も恐れるのは、真の事業家ではなく、偽りの社会事業屋に陥ることである。」と書かれていました。この言葉を肝に銘じ謙虚にそして光の子どもの家で生活するすべてのなかまたちが

4月7日(日)
今年の桜は入学式までもった。幼児の新規入所が多く、駐車場に入ることでトイレ、見守りの難易度も上がったため、花見の名所まで行くのは断念。
春休み最終日、園庭にビニールシートと折りたたみ机を並べ、おやつを食べながらお花見。歩き回らずにおなじみの菓子が食べられ、冷凍庫から出したてのアイスが食べられるのはむしろメリックかもしれない。

感謝しあえる毎日にしていくことを目指します。また、ボランティアの方たちの協力を得ながら子どもたちや職員との交流をはかり地域の方々にもかわいがっていただけよう様な機会を作りたいと思います。

まだまだ力不足でご迷惑をおかけすることも多いかとは思いますが今後ともよろしくお願いたします。

かな人間社会をベースにした、自然への人間の適応を生み出していくような気がしてならない。お互いに殺しあう人間社会の対極に生成AIの生み出す世界を思い描くのは夢想か。

ここまで来て、「人間は、一人で生きていくことはないのだ」と思い当たる。生まれたときは母親に抱かれ、学校で友達と語り合い、夫婦で悩みあう。人間同士の心の交流こそが人間を人間たらしめている基本であるはずである。しかし、いまそのことが少しずつ忘れられ始めているような気がする。これでは、人間社会がAIに占領されてしまうかもしれない。熱き想いの触れ合いを大切にして一緒に歩んでいくことがいま私たちに求められているような気がしてならない。

(この記事の一部は私が勤務している老健施設、「紅寿の里」の広報誌に書いたことの借用であることをお許し願いたい)

痛い

体の一部分であつても痛いのは辛い。

1月の末頃、何となく腰の辺りが痛くなつてきたので或る病院へ行つた。

そこで様子を伝え、色々な検査や説明をしていただき、痛み止めの薬を処方され帰つた。

その後の日常生活で忘れることなく朝、昼、晩、食後に薬を飲んだ。

そんなことをしているうち次第に腰の痛みが右足に移つてきた。けれども薬をきちんと飲んでいればいずれこの痛みも解消するだろうと、希望を持つていた。

ところが、右足の一部分だけだつた痛みが、右足全体になつてしまつて立つのもしんどい。こうなつたら車の運転もできない。それどころかこのままだと歩くこともままならない。

そこで小型の椅子付き歩行器を買つた。これに腰を下ろ

彫刻家 中島 睦雄

し、後ろ向きに移動するようになった。たつた数歩離れているところにさえ自力で歩いて行けないのだ。

もうこんな状態になつてしまつたら独居老人の私の生活は非常に困難だ。

そこで、近くに住んでいる弟に頼り、買い物をお願いした。弟も何とか都合をつけて買ってきてくれる。こうして、何とかだが不便な生活をしている。

そうしていくうちに4月に入るとほんの少しだが痛みが和らいできた様に思える。

依然として痛みはあるのだが、希望が見えてきた。人は希望があるから前に進めるのだらう。有難い。

【休載のお知らせ】

近藤みちる「共育ちカンガルー日記」は休載です。



佐藤家から
「新しい環境へ」

大鹿 媛歌

入学式に合わせて咲いたかのような桜もあつという間に散り、暖かな気候となつてきました。

新しい年度が始まりました。昨年度末、知宏は家族のもとに帰り小学生になりました。日向は分園の「はたい」へ移り、高校生になりました。達也は中学生になりました。そして、新しい仲間が加わりました。重明、2歳です。初めは人見知りをしていたものの、ご飯をとにかくよく食べます。光の子どもの家に来た日、大泣きしていたのも束の間。昼食になると「おかわりちよーだい」とカレーライスをパクパク食べました。佐藤家の子どもたちも重明に興味津々。次第にみんなとコミュニケーションが取れるようになり、一緒に遊ぶ姿が見られるようになりました。外遊びと車が大好きで、「お外行くの」と言つて毎日外に出る時間を心待ちにしています。泣いているのを見ると、福が駆けつけてきて「大

丈夫だよ」と声をかけてあやしてくれれます。重明もそんな福が大好きで、福が小学校から帰ってくる嬉しそうに後をつけて歩きます。

子どもたちそれぞれが新しい環境になりましたが、そんな中でも安心して過ごせるよう整えていきたいと思いま

原田家から
「引っ越し」

岩崎 まり子

つい先日まで「若葉がきれい」などと言つていた庭のけやきも、すっかり初夏の装いです。

さまざまな事情で子どもや大人の引っ越しがあつた昨年度末。原田家でも大きな移動

がありました。

ずつと一緒で、離れることなど想像もしていなかった姉弟が別々の家に、兄妹も別の家になりました。そのことが発表された日、弟の武士は、「まじめに俺、別の家になるのは無理なんだけど。」と言つてきました。

「そうだよ。本当にそうだと思う。申し訳ない。」私は、そう謝ることしかできませんでした。

不承不承の引っ越しは、遅々として進まず焦りました。が、それでも子どもから「こっちは引っ越したくないのに、なんで急かさなげないけないの？」と言われれば「確かに。」

と思わず納得してしまう私が

いました。

期日ギリギリに少しずつ荷物を運び出し始めた兄をチラチラ見ながら、玄関で座り込んだり、イライラして暴言を吐いていた妹の花梨。忙しくしている皆の邪魔をしているかのような彼女の振る舞いに周囲は苛立っていききました。

「花梨ちゃん、は武士くんや輝ちゃんと離れるのが寂しくて、どうしていいかわからないんだよ。」

と、私が声をかけると、彼女はぼろぼろと涙をこぼし、声を上げて泣き始めてしまいました。

そんな妹を見て武士は、多分「自分の大変さ」だけでない視点を気付いたのでしよう。優しく花梨の頭に手を置き

「いつでも俺のところに来ていいんだよ。」と声をかけてくれていました。

今回の引っ越しも、決してマイナスだけではないと、《あの時、引っ越して良かった》と思つてもらえるようお願いしながら、新たなメンバーで生活をつくつていきます。



厨房から 「ご飯作りたい」

関根 祐介

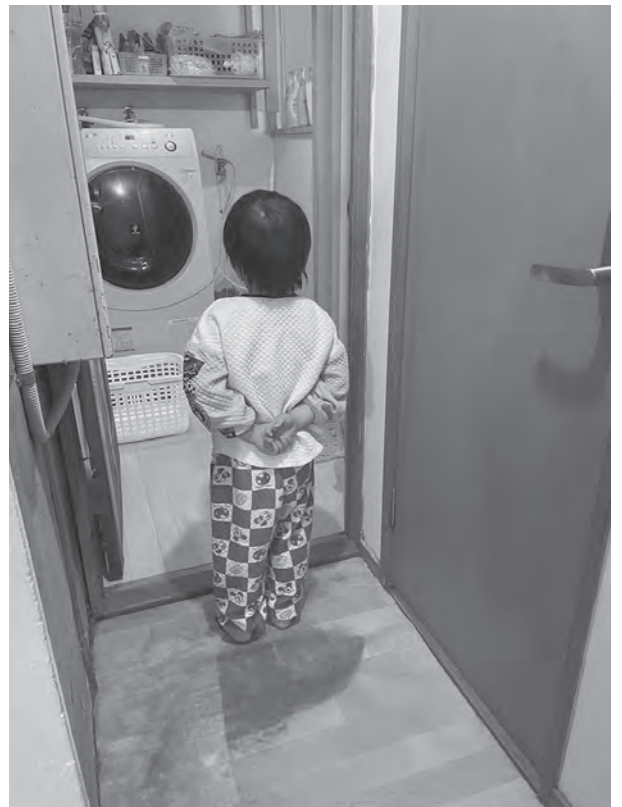
桜の花も散り、木々の芽も膨らみ始め、だんだんと暖かな季節がやってきました。

春は出会いと別れの季節でもあります。

3月に光の子どもの家を卒園していった利一は、よく「一緒におやつを作ろう」と私に声をかけてきてくれました。忙しい時にも言ってくることもあり、そんな時は内心「今の状況を見て分かんないかなあ」と「今日は出来ないなあ、また今度なら……」と断ることもしばしばありました。

そんなことも彼とは今ではできないと思うと少しさみしさを感じます。

4月には小さい子が一気に3人入所してきました。その中の4歳の玄師は食にとでも興味があるようで、関わる度に「ご飯作りたい」と言ってきます。食に興味があることは嬉しいことです。まずは知育菓子等からやっていき、もう少し大きくなったら一緒に



洗濯機大好き。ドラムに手を突っ込んでぐるぐる。しかし危ないので、職員は説明書を読んでチャイルドロックをかけた。

調理が出来たらなと思います。

卒園した利一と同じようなことを言ってきたりする子が新しく来たことに不思議な巡り合わせを感じました。

仙道家から

「新顔と古株」

奥寺 美鈴

新しい年度になり寂しい別れを経験した私たちにも嬉しい素敵な出会いがありました。小一の博、年中の玄師の兄弟がやってきたのです。不安も沢山あった事でしょう

が、お話がとても上手です。すぐにいろんな大人や子どもに話しかけに行っていました。

年下が2人入って来た事であった、小2の友則、小5になった亜紀は「美鈴ちゃんと同じ部屋が良いのに」と涙を流しながら、でもずっと「1人部屋になつたら美鈴ちゃんとは寝ないよ。寂しいかもしれないけど夜もできる限り仙道家にいるから」と話をし、こちらとしても多少心を痛めながらも彼の成長にはベタベタするだけが親心ではないはず

だと自分に言い聞かせ今の日常を送っています。まだまだ新しいメンバーに慣れずわちゃわちゃしていますが、遠藤、佐藤を中心に新しい生活を頑張っている仙道家の子どもたちです。

そんな中で改めて、私自身がそうでしたが、家の職員の入れ替え、メンバーが替わる事で子どもが受けるストレスを思い出します。

私の考えは（私は今年で40歳ですが）今の時代にそぐわないのかもしれませんが、私たち職員は働く場所ですが、子どもたちはただ生活している場所。私になにができるのか、私は子どもたちにとってどうあるべきか……を考えています。

むずかしいですが、子どもたちの無邪気な笑顔を見ると「こいつらのためにここにいたい」と素直に思え、そのために自分の行動や考え方を改める自分がいる……。やはり、私自身がともに生きていくためにここで働いていたいんだなあと思つて日々です。

仙道家から 「異動後のいろいろ」

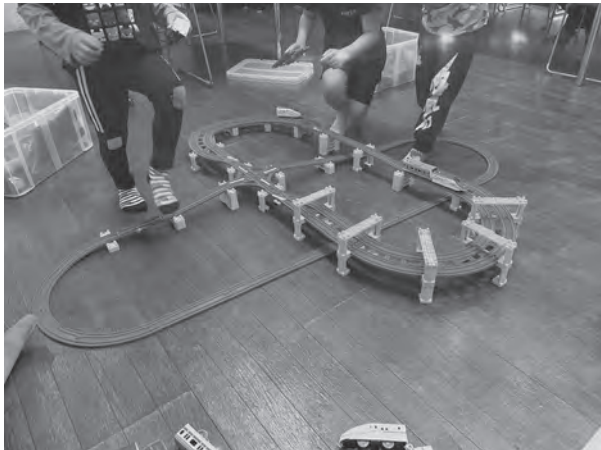
佐藤 義岳

入職1ヶ月目から分園（倉澤家、竹花家）暮らしだったが、8年目にして本園へ異動となった。

慌ただしい年度末だった。倉澤家でみずきが使っていた部屋のエアコンを掃除して、それから電源を入れる前に、日向の荷物が運び込まれてしまった。冷房をつけたら大量のホコリが吹き出したと、日向に怒られた。

仙道家では新規入所の兄弟を担当することになった。初めは20時に二人の寝かしつけをして、そのまま一緒に寝落ちする毎日だった。夜中の2時や3時に起きて風呂に入っている、4歳の玄師が起き出して脱衣所のドアを全開にして待っているのが困った。兄弟ともやたら朝起きるのが早く、起きてすぐ大きな声で話すから、他の子の目覚ましになってしまった。2ヶ月目の後半くらいから、朝寝坊してくれるようになってきた。洗濯物は天日で干すつもり

だった。本園はベランダもあるのに、どうしてみんな使わないのだろう、と思っていた。実際にやってみたら、漏らしたり食べこぼしたりして汚した服はその日のうちに洗ってしまったし、洗濯物を洗って外干ししたら乾くところに小学生が帰ってきて、取り込んで干す暇がないのだった。ガス乾燥機万歳。



玄師も博も、電車と車が好きた。食堂兼室内遊び場には、色々な方から寄贈されたり、買い足したりしたプラレールがある。博は線路を組み立てるのが上手で、橋脚やポ

イントレールをうまく組み合わせさせて、高架の上に十字路みたいな線路を作っている。

車両は動かなかったり揃っていないなかったりする物も多かった。せつかくならしつかり走る電車で遊んでほしいし、身近な電車に親しんでほしい。大宮駅に乗り入れている新幹線と在来線を一通り揃えた。勢いづいて、メルカリで東武リバイ、スぺーシアX、日光詣スぺーシアまで買ってしまった。ただ、実際の子どもの遊び方とは違って、ごちゃ混ぜでとにかく長い列車を作っていたりする。



亜紀が野球を始めた。もとはというと、去年のWBCに触発されて達也などが園庭で野球遊びをやるようになってきた。亜紀はバットに当てるのが上手だった。学校で野球チーム体験会のチラシが配られ、行ってみたら「また行きたい」となって、休日に行けるときは行く、を何ヶ月か続けてきた。もともと身体能力はあるが、習いごとになったら続くだろうか、しかもチーム競技はどうだろう……。という心配はありつつ、亜紀も高学年になったし、これでうまくいってもいなくても、いい経験になるだろう……。というところで入団に至った。

練習用ユニフォームを買いに野球用品店に行った。亜紀がレジで思わず「高っ」と言っていた。「だから始めたからには最後までやりきつてね」と応えた。

今までやったことのない動作、新しい人間関係、複雑なルール、思っていたよりできない自分。たくさんの壁にぶつかるだろうが、なんとか乗り越えてほしいと思う。

日誌抄

2024年3月
2024年5月

【6月1日の在籍児童数】

未就園1名 幼稚園5名
小学生11名 中学生7名
高校生7名 大学生1名
計 32名

【3月】

1日 県立高合格発表、受験した2名とも合格
3日 招待を受けサッカー浦和レッズレディース戦観戦
7日 加須更生保護女性会慰问
8日 達也が「みんな食堂」のボランティアに参加
15日 パントリイ
16日 「出発の会」5名が次の道へ
17日 柿沼学園 & REBOLA サッカースクールのご厚意で光の子どもの家向けの運動教室
18日 3月生まれの誕生会
23日 第133回理事会
28日 竹花と倉澤の送別会
29日 児童健康診断
の4名が入所、それに合わせて新年度の体制に移動

【4月】

5日 進級進学祝いの会
14日 東大宮教会でイースター礼拝
22日 4月生まれの誕生会

【5月】

3日 仙道家と佐藤家から数名ずつ、それぞれ加須市民平和祭へ ジャンボこいのぼりを見る
4日 子ども祭り
11日 亜紀、少年野球に入団
20日 4月生まれの誕生会
25日 招待を受けサッカー浦和レッズレディース戦観戦
27日 後援会役員会

【礼拝ご奉仕各位】

東大宮教会 木田浩靖教師 佐々木優牧師

【委員会の主な動き】

運営 年度当初より移り変わる状況に合わせて職員体制を再編成
危機管理 避難訓練実施
環境整備 年度替わりで出た廃棄物の処理、鯉のぼり設置、生ごみ収集ボックスを新調

食生活 献立、アレルギー研修受講

研修 内部研修、子どもワークショップ実施

広報 「光の子」発行

情報・通信 子どものインターネットの約束を新年度版に更新
建築 増田設計士と共に補修改修の検討

【実習受入】

鹿児島女子短期大学1名 埼玉純真短期大学2名
【元職員の来訪】 岩瀬志穂 牧野由紀子

【寄贈者各位】

市川美津子 岩上幸江 大塚東一 金山栄 小池みどり 坂田稲生 坂田喜久江 佐々木優 サヘル・ローズ 染谷すみ子 関口晃司 竹林勝子 斉藤政和 丹羽吉康 浜田文昭 湯澤真彦 いなば食品(株) コスト

コ明和倉庫 (有)サンワ 慈恵病院(蓮田健) すくすく広場 セカンドハーベストジャパ

(株)Dasuka & desiree (株)チュチュアンナ (株)なとり

日本郵船(株) ネパリー・バザール 他多数の皆様

【ボランティア各位】

〈華道〉 岡本有代 〈施設補修〉 栗橋 宮繕 〈手芸〉 山田智・裕子

〈学習〉 常松洋介 向井進 関口晃司 〈保育〉 坂本美紗

子 他多数の皆様

ご寄付について (物品の寄贈は事前にお問い合わせください)

【郵便振替】 00130-1-128022

他銀行から【銀行名】 ゆうちょ銀行 【金融機関コード】 9900 【店名】 019店
【店番】 019 【預金種目】 当座 【口座番号】 0128022

【発行】 社会福祉法人 光の子どもの家 【住所】 〒349-1155 埼玉県加須市砂原277-3
【電話】 0480-72-3883 【FAX】 0480-72-6649 【メール】 hikarinoko@ceres.ocn.ne.jp
【Webサイト】 http://www.hikarinokodomonoie.com/ 【印刷】 (株)エル・アートデザイン